

グラを支えるチームドクター

J2名古屋グランパスが、Jリーグ屈指のメディカル体制を整えている。クラブハウスにチームドクターが常駐し、負傷した選手を診察。けがの経過具合を逐一把握して、適切な治療を施している。移籍してきた選手も多くが驚く万全の体制で、長いJ2での戦いを

後押しする。9日は休養日だった。

J屈指の体制

過酷なJ2の戦いの中で、負傷者も出ているグランパスだが、クラブは万全のサポート体制を整えている。その中で、移籍してきた選手も多くが驚きの声を上げたのは、試合だけでなく、練習中にもチームドクターが常駐しているからだ。

「常駐」に驚く櫛引、小林ら移籍選手

J全体でも、ドクターが練習に来る回数が週2回程度というクラブがほとんどだ。札幌から移籍



4月1日の熊本戦で負傷交代した佐藤を見つめる深谷泰士チームドクター(右)=豊田スタジアムで(榎戸直紀撮影)

熊本戦で負傷寿人「診察結果早く分かって安心」

名古屋のメディカル体制はとても充実している」と目を丸くする。

本来、ドクター自身が勤める病院の業務で、練習に来る回数は限られるが、グランパスは2004年から名大の整形外科チームの協力を得て、医師を派遣してもらっている。15年4月から同行する深谷泰士チームドクター(46)ら3人が交代でクラブハウスに顔を出し、選手の診察に当たっている。

最大のメリットは、迅速に適切な治療を始められることだ。深谷ドクターは言う。「他のクラブもトレーナーの方はいま

だが、処置はできても診察はできない。練習中の負傷はもちろん、けがの経過を毎日見て、その時指示できるのは、毎日い

すが、処置はできても診察はできない。練習中の負傷はもちろん、けがの経過を毎日見て、その時指示できるのは、毎日い

佐藤は、熊本戦で負傷したものの、その日のうちにクラブハウスで診断を受け、「診察結果を早く分かるから安心する。と分かります。毎日いってもありがたい」と感謝する。

「選手たちに万全の状況」

「今年には特に地域の方に応援してもらっていると感じます」

「長森謙介」



長森謙介

「今年には特に地域の方に応援してもらっていると感じます」

グラ番記者

た。昨年の10倍以上にもなる30万枚のチラシを配布したが、これは名古屋市などの行政の理解があったからだ。また豊田市は、本来有料である駅前のスペースを無償で提供。グランパス仕様のバスを走らせるなどクラブと共同プロモーションを実施した。「降格というピンチに共鳴してもらっているんだと思います」と佐藤さん。より地域に溶け込めるように。行政とクラブを結ぶホームタウン担当の活動は続く。

深谷泰士ドクター「その時に合わせた適切な治療できる」